

図書館通信

松山城南高校
図書・情報委員会
R元. 12
No6

☆第54回子規顕彰松山市小中高校生俳句大会表彰式

第54回子規顕彰松山市小中高校生俳句大会の表彰式が11月23日、愛媛県松山市道後公園の子規記念博物館で行われました。本校の受賞者と俳句をご紹介します。

特選	行き先が遠のいていく炎天下	1年福祉科	露口美空さん
入賞	積乱雲シロップかけていただきます	1年看護科	天野美優さん
入賞	かきごおり君の横には僕がおり	3年調理科	石井真紘さん

図書館には俳句に関する本も置いてあります。皆さんも四季折々の自然や風物にのせて、自分の感性を短い言葉で表現してみませんか？



☆多様な読書を

9月号の図書館通信でもお知らせした通り、図書の貸出冊数は昨年度の2倍。読書に親しむ人が増えてきました。人気があるのはやはり小説です。しかし、図書館には小説以外にもおもしろい本がたくさんあります。冬休みは新たなジャンルに挑戦してみましょう。



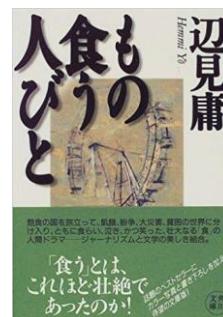
『居るのはつらいよ: ケアとセラピーについての覚書 (シリーズ ケアをひらく)』東畑開人著、医学書院

心理学に興味のある人におすすめ。主人公は若き心理士。就職先のデイケアで上司に命じられた仕事は「取りあえず座って」だった。第73回毎日出版文化賞〈企画部門〉を受賞した「シリーズ ケアをひらく」の中の一冊。



『大谷翔平 二刀流の軌跡』ジェイ・パリス著、辰巳出版

「いいバッティングをしたい。いいピッチングをしたい。それをいつも望んできました。(大谷翔平)」アメリカに渡った二刀流のスーパーリーキーを現地のジャーナリストが取材。世界中の野球ファンを魅了する彼の魅力が詰まった一冊。



『もの食う人びと』辺見庸著、角川書店

平成9年初版発行、平成31年37版発行。20年以上を経たなお読み継がれている作品。筆者は紛争地域や飢餓に苦しむ地域を旅して、現地で食事をする。残飯、汚染スープ、ジュゴン。「食」を取材して筆者が感じたのは、日本という飽食の国に落ちる灰色の影。飢餓は遠い国の話だろうか？



『外国人から日本についてよく聞かれる質問200 外国人観光客からはよく聞かれるのに日本人には想定外の質問あれこれ』森田正康著、医学書院

来年に迫った東京オリンピック。世界各国から観光客が押し寄せ、コミュニケーションを取れる機会もあるかも。外国人が疑問に思う200のこと、あなたはいくつ答えられますか？

☆貸出ランキング(4月~12月)

- 『小説 透明なゆりかご(上)』沖田×華原作、橘もも著
- 『Re:ゼロから始まる異世界生活!』長月達平著
- 『魔眼の匣の殺人』今村昌弘著
- 『ソローキンの見た桜: 日露戦争時代のロミオとジュリエット』田中和彦原作、豊田美加著
- 『スマホを落としただけなのに』志駕晃著
- 『アオハライド!』阿部暁子著
- 『人外サーカス』小林泰三著
- 『いつかすべてが君の力になる(14歳の世渡り術)』梶裕貴著
- 『小説 透明なゆりかご(下)』沖田×華原作、橘もも著
- 『また同じ夢を見ていた』住野よる

☆冬休み特別貸出

12月9日より、冬休み特別貸出期間となります。一人5冊まで借りることができます。返却期限は1月9日です。

